TPDS NEWS

※ TPDS ＝ Tokyo Plastic Dental Society ＝ （一社）東京形成歯科研究会

Vol.64　**配信日**：2023 年 8 月 21 日　**配信元**：（一社）東京形成歯科研究会　事務局

医療タイムス　記事紹介

“ 進化に伴う二枚舌の変化 ”

相談役･理事　北村 豊 先生

当会の相談役･理事　北村豊先生からご提供いただいた記事をご紹介させて頂きます。

記事の内容につきましては、別紙※(Email の場合：別添)(Fax の場合：本状含め 2 枚目)の通りでございます。

※ 別紙　出展元：医療タイムス　2023 年(令和 5 年)8 月 10 日(木曜日) 発行

事務局より

会員の先生方から情報提供いただければ、その都度、施設長に相談して、「TPDS NEWS」にて配信させていただいております(施設長より)。従来は、歯科･医科に関する内容を配信しておりましたが、北村先生のご指導もあり、「TPDS NEWS」を会員･関係各位の交流の場(ツール)として活用していただくことを目的に、配信する内容(企画)の幅を拡大することと致しました。お気軽に「TPDS NEWS」の材料(ネタ)を事務局まで(下記)ご提供いただけると幸いです。ご検討の程、何卒宜しくお願い申し上げます。※反社会的内容等の場合は、配信を断念する場合もございます。予めご了承願います。

〒114-0002　東京都北区王子 2-26-2 ウェルネスオクデラビルズ 3F
一般社団法人東京形成歯科研究会　事務局
Email:　okudera@carrot.ocn.ne.jp
TEL:03-3919-5111／FAX:03-3919-5114

寄稿エッセイ

進化に伴う二枚舌の変化

北村 豊

「二枚舌」という言葉を聞くと、ほとんどの人はマイナスのイメージを持つのではないだろうか？

しかし、ホンモノの二枚舌を持つ動物が現在も生き続けていることについてはほとんどの人には知られていない。

ここで述べる二枚舌とは、舌の下にあり解剖学では「下舌」と呼ばれる器官であり、メガネザル、キツネザル、そしてスローロリスなどの原始的なサルが持っている。学生時代のヒトの解剖学でも学ばなかった下舌について書籍で知ったのは、三十年位も前であろうか…。もし、四十数年以前に下舌の存在を私が知っていたなら、当時は青年海外協力隊で三年間もマレーシアのジャングルの病院にいて、しかも高床式の官舎で先住民から貰い受けたスローロリスとルームシェアしていたので、人一倍好奇心が旺盛な私ならまちがいなく下舌の存在を確認していたに違いない。

スローロリスは、その名のとおり、動きがとてもゆっくりで性格の穏やかな夜行性のサルなのだが、私が差し出す好物のバッタ等を捕まえる時は、信じられない早さで両手を動かせるのには驚いた。スローとは真逆のその行動を観察して、「やれば出来るじゃない！」とつい誉めてあげたくなったものである。

顔は大きな目がキラキラして愛らしく、初めて見ると、ホモ・サピエンスの遠縁にあたるとはとても思えないのだが、指には複雑な溝の指紋がちゃんとあり、墨汁を塗って私が採取した指紋を観察できた時には感動を覚えたものである。

進化と退化は、時として対義語として考えられることも多いが、動物においては、「進化には退化が伴う」と考えられている。

それでは原始的なサルが持っている二枚舌、いや下舌は私達の口腔の中から消え去ってしまったのだろうか？

いや、しっかりと痕跡器官として舌下面に残っていて、「采状ヒダ」と呼ばれ、歯医者なら学生時代に必ず習っているものである。

これが「下舌のなごり」であり、采状ヒダは誕生直後までは目立つが、その後は縮小し、退化器官の常として個体変異が非常に大きく、成人ではさまざまな退化段階がみられるという。日本人では約四人に一人は采状ヒダが欠損するのに対して、二十人に一人は逆に顕著だという報告もある。

私には残念ながらごく小範囲にしか采状ヒダは存在しないが、二枚舌の使い手として有名な国会議員？はさぞ立派な采状ヒダも持ち、それで“采配を振っている”のかもしれない。

読者の方々も、手鏡で采状ヒダの有無を確認されてはいかがだろうか？

（信州口腔外科インプラントセンター所長 上高井郡小布施町）